

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ヒドロメチルノン
製品コード	99052601
整理番号	Q9-04-1
供給者の会社名称	林 純薬工業株式会社
住所	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
担当部門	マーケティング・商品開発部 商品企画グループ
電話番号	06-6910-7290
緊急連絡電話番号	06-6910-7290
FAX番号	06-6910-7340
URL	http://www.hpc-j.co.jp
E-mail	mpd@hpc-j.co.jp

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

健康有害性	急性毒性(経口) 区分4 急性毒性(経皮) 区分外 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分外 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2B 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(神経系 腎臓 精巣)
環境有害性	水生環境有害性(急性) 区分1 水生環境有害性(長期間) 区分1 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

#### GHSラベル要素

##### 絵表示



##### 注意喚起語 危険有害性情報

警告  
H302 飲み込むと有害  
H320 眼刺激  
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による神経系、腎臓、精巣の障害のおそれ  
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

##### 注意書き 安全対策

取扱い後はよく手と眼を洗うこと。(P264)  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
環境への放出を避けること。(P273)  
保護手袋を着用すること。(P280)

##### 応急措置

飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。(P301+P312)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
(P305+P351+P338)

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。  
(P308+P313)

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)

口をすすぐこと。(P330)

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)

漏出物は回収すること。(P391)

保管

施錠して保管すること。(P405)

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

化学名又は一般名

テトラヒドロ-5, 5-ジメチル-2(1H)-ピリミジノン[p-トリフルオロメチル)- $\alpha$ -[p-(トリフルオロメチル)スチリル]シンナミリデン]ヒドラゾン

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
ヒドラメチルノン	100%	C <sub>25</sub> H <sub>24</sub> F <sub>6</sub> N <sub>4</sub>	(5)-6189		67485-29-4

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

### 4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分を緩めてやる。

医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

汚染した衣服、靴、靴下を脱がせ遠ざける。接触した身体部位を水と石鹸で洗うこと。

医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

直ちに多量の水を飲ませる。

口をすすぐこと。

医師の診断、手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

火災時に刺激性もしくは有毒なフェームまたはガスを発生する。

特有の消火方法

周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。

移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。

着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材** 砂又は不活性吸着剤を撒いて、できるだけ掃きとり密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移す。

回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。

長時間または反復の暴露を避ける。

漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分に作る。

作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分に作る。

取り扱う場合は局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱う。

#### 安全取扱注意事項

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

ミスト、蒸気、スプレー、粉じん、ヒュームを吸入しないこと。

排気用の換気を行うこと。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

環境への放出を避けること。

眼、皮膚、衣服との接触を避ける。

### 保管

#### 安全な保管条件

施錠して保管すること。

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

#### 安全な容器包装材料

遮光した気密容器

## 8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
ヒドロメチルノン	設定されていない		

### 設備対策

取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

#### 呼吸器の保護具

防塵マスク、自給式呼吸器(火災時)

#### 手の保護具

保護手袋

#### 眼の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

#### 皮膚及び身体の保護具

保護服、保護長靴、保護前掛け

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理的状態

固体

#### 形状

固体(結晶)

#### 色

黄色～橙色

#### 臭い

植物油様の臭い

#### 臭いのしきい(閾)値

データなし

#### pH

データなし

### 融点・凝固点

189～191℃

### 沸点、初留点及び沸騰範囲

情報なし

### 引火点

データなし

### 蒸発速度

情報なし

### 燃焼又は爆発範囲

データなし

蒸気圧	情報なし
比重(密度)	データなし
溶解度	水に不溶。アルコール、アセトンに可溶。
動粘性率	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の実用においては安定である。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	日光、熱
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

## 11. 有害性情報

急性毒性:経口	ラットのLD <sub>50</sub> 値が雄 1131mg/kg、雌 1300mg/kg (HSDB (2009)) に基き、区分4とした。
急性毒性:経皮	ウサギのLD <sub>50</sub> 値が >5000mg/kg (HSDB (2009)) に基き、区分外とした。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	ラットのLC <sub>50</sub> 値は >5000mg/m <sup>3</sup> (換算値:>5mg/L) に基き、JIS分類基準の区分外(国連分類規準の区分5または区分外)とした。(飽和蒸気圧濃度は5.39E-07mg/Lである。従って試験はミストで実施されたものと判断される。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギを用いた試験で、刺激性なし (HSDB (2009))、皮膚刺激性はない (HSDB (2009)) 及びモルモットを用いた試験で、皮膚刺激性はない (HSDB (2009)) のデータから、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギを用いた試験で、具体的なスコア値の記述はないが角膜混濁、結膜発赤、結膜浮腫が発現し、7日間の観察期間で可逆的であり、中等度の角膜刺激と記載 (HSDB (2009)) されていること及びウサギを用いた試験で、可逆性の刺激 (HSDB (2009)) の情報から、区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性: :データなし 皮膚感作性: :モルモットを用いた試験で、感作性なし(HSDB(2009))および皮膚感作性でない(HSDB(2009))の情報から、区分外に該当するが、リスト2のデータであることから分類できないとした。
生殖細胞変異原性	生殖細胞および体細胞in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro のデータとして、Ames試験 (HSDB (2009))、CHO細胞を用いる染色体異常試験 (HSDB (2009)) で陰性の結果が得られている。
発がん性	マウスの76週の経口投与試験で、肺、胸部、気道に腫瘍、気管支原性がんの発現、腫瘍は自然発生的などの記述 (RTECS (2007)) があるが、この記述のみで被験物質の発がん性について判断するのは難しいこと、このデータ以外に適切な動物試験の情報がないため、分類できないとした。
生殖毒性	ラットを用いた2世代経口投与試験(0, 25, 50 or 75 ppm) で雄の50 ppm 以上のばく露群に輸精管の変性が見られ、親の毒性は明らかでないが、F1の高用量群の雄に交尾の減少、F1の雌に妊娠、着床率の減少傾向が観察され、同腹の産仔数が減少した (HSDB (2009))。ラットの強制経口投与試験(0, 3, 10 or 30 mg/kg/day, days of 6-15 of gestation) で親に毒性示すばく露量(30mg/kg/day) で僅かな化骨遅延(不完全な上後頭骨)や未発達な肋骨発生の増加が見られた (HSDB (2009))。催奇性は明らかでないが、F1の雌に妊娠、着床率の減少傾向が観察され、同腹の産仔数が減少していることから区分2とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットを用いた28日間の経口投与試験(0, 50, 100, 200, 400 or 800 ppm) で200 ppm (18.7mg/kg/day : 90日補正值=5.81mg/kg/day) 以上の雄の投与群に精巣への影響(精巣細管変性、巨細胞形成)が観察された。(HSDB (2009))が見られ、ラットを用いた91日経口投与試験(0, 25, 50, 100 or 200 ppm) で全ての投与群で用量に依存して精巣重量が減少し、100ppm (8.6mg/kg/day) 以上のばく露群で

精巣萎縮、200ppm (17.0mg/kg/day) のばく露で軽度の前立腺萎縮が見られている(HSDB (2009))。また、ラットの2年間の経口投与試験(0、25、50、100 and 200 ppm)で雌で50ppm以上、雄で25ppm以上の投与群に用量に依存して糸球体腎炎の発現、雄の50ppm以上ばく露で精巣萎縮の発現(100、200ppmでは際立っていた)が観察された(HSDB (2009))。

マウスの18ヶ月間の経口投与試験で(0、25、50、100 and 200 ppm)で雌雄とも50ppm(換算値:7.5mg/kg/day)以上のばく露で慢性腎炎、腎臓にアミロイド沈着がみられ、雄の50ppm以上のばく露で精巣変性が発現した。また、イヌの91日間の経口投与試験で(0、3、6、or 12mg/kg/day)で雌雄の6及び12mg/kg/dayのばく露群に振せん、ひきつけ、筋肉及び皮下脂肪の消耗が見られ、雄の6及び12mg/kg/dayのばく露群に軽度～中等度の精巣萎縮が観察されている(HSDB (2009))。ラット、マウスのガイダンスの区分1の用量で精巣、腎臓への影響が見られ、イヌにおいてはガイダンスの区分1の用量で振せん、ひきつけなどの神経系への影響が認められるがリスト2のデータあることから区分2(精巣、腎臓、神経系)とした。

ラット、マウスのガイダンスの区分1の用量で精巣、腎臓への影響が見られ、イヌにおいてはガイダンスの区分1の用量で振せん、ひきつけなどの神経系への影響が認められるがリスト2のデータあることから区分2(精巣、腎臓、神経系)とした。

## 12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
オゾン層への有害性	データなし
水生環境有害性(急性)	藻類(スケルトネマ)の72時間EC <sub>50</sub> =0.00018 mg/L (ECOTOX, 2008)から区分1とした。
水生環境有害性(長期間)	急性毒性区分1であり、急速分解性がない(SRC: BioWin V4.10)ことから区分1とした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	3077
Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
Class	9
Packing Group	III
Marine Pollutant	applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code	Not applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	3077
Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
Class	9
Packing Group	III
国内規制	
陸上規制	該当しない
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	3077

品名	環境有害物質(固体)
国連分類	9
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	3077
品名	環境有害物質(固体)
国連分類	9
等級	III
特別の安全対策	運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。
緊急時応急措置指針番号	171

## 15. 適用法令

水質汚濁防止法	有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項(2)
船舶安全法	有害性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	その他の有害物件(施行規則第194条危険物告示別表第1)
特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法)	廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)
水道法	有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101)
下水道法	水質基準物質(法第12条の2第2項、施行令第9条の4)
土壤汚染対策法	特定有害物質(法第2条第1項、施行令第1条)

## 16. その他の情報

参考文献	国際化学物質安全性カード(ICSC) 16313の化学商品(化学工業日報社) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH
その他	当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。 現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。 当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。 当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。 国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。 このSDSは林 純薬工業株式会社の著作物です。 当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。